

令和4年度 横浜デジタルアーツ専門学校 学校関係者評価委員会報告書
(令和4年4月～令和5年3月)

0. 実施状況

校長指示の下、教務部長が自己評価表を作成し、教職員リーダー7名でそれぞれの項目について点検、評価を行い、取りまとめを行った。評価は、「1（不適切）～4（適切）」の4段階評価とし、併せて、可能な限り根拠や課題を明示するように努めた。

自己評価を実施後、専門分野における業界関係者、卒業生、接続がある学校関係者らから組織される学校関係者評価委員会を開催。自己評価報告に基づき、委員に評価・意見を求めた。指摘された改善点について、あるいはその後の学校運営の進捗により必要となった課題について、改めて教務部で検討を行い、対応を進めている。

1. 開催日時

令和5年8月23日（水）13:00～14:30

2. 学校関係者評価委員

樋口一孝氏	校長	神奈川県立神奈川産業高等学校	校長
菊池匡文氏	企業等委員	横須賀商工会議所	専務理事
北川貴和子氏	企業等委員・卒業生	株式会社高陽印刷所	取締役
小峰正仁氏	企業等委員	株式会社ブルーム	代表取締役
上坂伸夫氏	企業等委員	株式会社フジパシフィックミュージック	エグゼクティブプロデューサー

3. 出席教職員

三辻 訓	校長	藤原 光洋	教務課	課長補佐
村田 恒	教務部 部長	宮下 隆友己	教務課	課長補佐
柿本 圭介	教務部 担当部長	坂口 雅子	教務課	課長補佐
高内 一平	教務部 次長	木村 稔	教務課	上席専門官
指澤 祐二	教務課 課長	高原 誠	教務課	主任
鈴木 伸也	広報学生課 課長	高山 和也	キャリア開発部	次長



3. 自己評価報告と学校関係者評価・意見、及びその後の対応状況

令和4年4月1日より令和5年3月31日までの学校運営についての自己評価報告、委員の意見、ならびに意見を踏まえた対応は以下のとおり。

(1) 教育理念・目標

<報告>

- ・教育理念・目標は、「高度な技術力の習得・プレゼンテーション能力の育成・豊かな人間性の涵養」。
- ・学生に科目毎のシラバスを作成・配布。非常勤講師との意識統一、教育レベル安定のために、講師ミーティング、日々の授業後等において、周知徹底している。
- ・R3年度より3つのポリシーも制定し、入学案内、募集要項に記載している。

<評価・意見>

(特になし)

<対応>

前期後期で年2回、教育課程編成委員会を開催し、委員の意見を集約する。令和4年度は8月24日、3月15日に実施。具体的な教授方法、進捗状況などを確認する。

(2) 学校運営

<報告>

- ・年度当初に事業計画・予算の策定。定期的な会議等により学校運営の進捗状況、課題等を全教職員が把握。
- ・学生数増に伴う業務増のため、教職員の増員が必要であることが以前から指摘されていたため、令和4年度に5名増員し、改善されてきている。

<評価・意見>

- ・特になし

<対応>

- ・今後も適正な人事配置、業務の効率化を図っていく。

(3) 教育活動

3)-1 カリキュラム (教育課程)

<報告>

- ・「職業実践専門課程」として「教育課程編成委員会」を設置。カリキュラム変更は、神奈川県に提出・承認。成績評価・単位認定は、シラバスに記載、学生へ周知。
- ・企業連携講座を積極的に実施。
- ・流行・トピック的な学習も必要と認識、選択授業「短期講座」を設定し、年度途中であっても授業内容を柔軟に追加している。
- ・教員が高校の見学会、学生募集イベント、入学面接試験等に参加・担当することで、課題設定や学習スピード等をカリキュラムに反映させるようにしている。

<評価・意見>

- ・教員によるティーチングの問題について、今の学生のニーズに合ったやり方を考える必要性を感じている。今の若い人たちはソーシャルメディアの情報を正しいものと認識する傾向があるため、メディアリテラシー教育の必要性を感じている。また調べ物をするという習慣がない者も多く、情報収集のスキルの低下も感じている。

<対応>

- ・メディアリテラシー教育は、4年制のメディアクリエイティブ学科、デザイン系学科を中心として展開している。情報集スキルについても就職活動に向けて必要とされることが多く、自ら調べ習慣づけは、各学科のカリキュラムに取り入れていきたい。

(3)-2 教員の質確保・研修等

<報告>

- ・教員の質については、学歴や業務経験、人物など総合的な基準を設けた採用。学生アンケート（授業評価）実施、グループ・個人目標設定して改善。
- ・教員の指導力育成のための外部セミナー、研修会等への参加義務付けている。

<評価・意見>

- ・特になし

<対応>

- ・教員研修については、各分野の教員に最新の技術動向についての研修に参加するよう、オンラインでの研修への参加も積極的に奨励し、計画的に実施する。

(3)-3 インターンシップ・成果発表等

<報告>

- ・各学科で企業実習や企業との連携プロジェクトを積極的に継続実施している。
- ・コミュニケーション能力の育成は、グループワークやプロジェクト型学習を取り入れること、また外部講師による特別講座の実施等で向上を図っている。
- ・学生の主体性を育むために、学園祭実行委員会や各種イベントを支援。
- ・教育活動の公開については、前期発表会、後期の YDA EXHIBITION をオンラインも交えての実施を行った。

<評価・意見>

- ・以前よりプロジェクト学習の取り組みを行っているが、基本的に年度ごとの取り組みとなっている。就業者が長続きしないという問題も見据えて、継続的な取り組みを行うことができればと考えている。

<対応>

- ・プロジェクト学習はこれまで毎年更新していくために単年での取り組みとしてきたが、ご意見いただいている通り、継続的な取り組みをすることでの効果も検証してみたい。4年制学科ができたこともあり、継続的な取り組みについてもぜひ検討していきたい。

(4) 教育成果

(4)-1 就職

<報告>

- ・就職指導部職員が、学科担当者、担任と連携して学生の就職指導を行っている。求人票や過去の就職活動のデータベース化などのシステムを構築。
- ・令和4年度卒業生の就職希望者の内定率は94.8%。
- ・引き続き、インターンシップや正規の授業以外に特別授業を実施するなど弾力的、受験企業別の対応を行い、就職実績向上を図る。

<評価・意見>

- ・以前から話に上がっているが、個人事業主という選択を学校として押し出しても良いのではないかと感じる。多様な仕事の在り方がある中で就職というゴールだけではないと感じる。
- ・基本的には学生自身が楽しいと思える授業を展開することが大事だと思う。就職活動でうまく進路が決まらない学生に対しては、好きなモノと、好きな職種をうまく組み合わせることで継続できる仕事になるのではないかと。学生によってそういった組み合わせを合わせてあげることが大事なのではないかと。

<対応>

- ・最近になり、有名になる卒業生も出てきつつあり、就職率という数字だけではない新たな指標について検討を進めている。
- ・求人との関係にもなるが、いただいている通り、様々な業界で必要とされる分野になっており、表に出てくる求人内容とは異なるところでニーズがあることには可能性を感じている。学生の好きなモノと、職種の結び付けについてはキャリア開発部と協力して検討したい。

(4)-2 退学

<報告>

- ・令和4年度の退学率は5.81%。
R4年度はオンライン授業と対面授業が混在することにより学生の生活リズムが崩れやすくなったこともあり退学者微増となった。

<評価・意見>

- ・退学率に関しては、何が原因で退学しているかによって評価は変わるのではないかと。ミスマッチなどの早期退学については、教育内容によるものではなくその前の段階の問題なのではないかと。
- ・卒業生と学校との連携について詳しくお伺いしたい、例えば卒業生から在校生にアドバイスしてもらおう機会はどの程度持っているのか。様々なバックボーンを持つ卒業生からのサポートを受けることができれば、結果として退学者の減少につなげることができるのではないかと。

<対応>

- ・退学率に関しては以前から、このミスマッチという問題も包含した形で5%以下という目標を立てている。もちろんミスマッチについても入学前のオープンキャンパスや入試の面接において確認・指導を行い防止策を講じている。

- ・卒業生との連携については、現在まさに課題として取り組んでいるテーマの一つ。卒業生のアーティストとコラボレーションした広報展開、学科ごとに卒業生を招いての座談会、展示発表等への招聘など、卒業生と関わる機会を増やしている。

(5) 学生支援

<報告>

- ・メンタル面での不調を訴える学生の増加。本校ではカウンセラー1名を採用、オンラインやメール等での対応も行っている。ほかにも、犯罪・薬物・消費トラブルなどの指導、震災・災害発生時の対応などの指導。
- ・経済的事情により就学継続できない学生増は、奨学金利用のサポートの強化、独自の学費分割納入制度の導入・紹介もあり、改善している。
- ・保護者への情報提供については、年間スケジュールに従い、成績、出欠状況を送付。
- ・学生が主体的に取り組む学外での創作・演奏活動（作品販売、コンサート等）について、出展費用など支援している。令和4年度はコロナ禍後再開している。

<評価・意見>

- ・(特になし)

<対応>

- ・引き続き、学生の主体的な活動を支援していく。

(6) 教育環境

<報告>

- ・入学者全員に貸与するノート PC（作品制作ソフト）と併せて、教育設備・環境の整備に力を入れている。
- ・令和4年度は、2号館5階の教室整備、5.6.7階の壁の塗り直し、エレベーターの更新等行った。

<評価・意見>

- (特になし)

<対応>

- 令和5年度も引き続き古くなった設備の入れ替えを予定している。

(7) 学生募集

<報告>

- ・年度当初に募集計画（募集人数、予算、広報媒体、イベント等）を定め、募集活動を行っている。令和5年度入学者は学科毎では増減あるが、全体では目標数を上回った。
- ・学生募集においても、オンライン説明会や、各分野のオンラインオープンキャンパスを行うなど、オンライン環境での募集活動も展開した。
- ・学校見学や説明会、体験入学等、入学を検討するイベントを数多く実施。入学後のミスマッチ（勘違い・思い込みによる入学）防止に努めている。

<評価・意見>

(特になし)

<対応>

引き続き、オープンキャンパスメニューとして、体験入学、作品見学&学校説明会、進学資金説明会、特別講座のほか、分野別の説明会を実施予定。

(8) 社会貢献

<報告>

- ・神奈川県専修学校各種学校協会が主催する小中高校生向けにキャリア教育プログラムに参画。主に夏休みを利用した講座で、毎回、多くの小中高校生が参加している。
- ・地域の様々な活動が推進されるなか、本校の体育館などの設備開放が求められてきており、学校休業日に施設の貸し出しを行っている。
- ・未来のクリエイターである中高生を対象にイラストコンテストを主催している。なかには授業や部活動として取り組む高校もあり、評価されている。

<評価・意見>

(特になし)

<対応>

- ・令和5年度も引き続き、イラストコンテストを開催する予定。

(9) 財務

<報告>

- ・入学者の確保に努め、入学者変動を抑えながら、収益事業を展開することで財政基盤の安定を図っている。
- ・人件費、広報費は、学園ガイドラインに従い、予算・収支計画を立案の上、執行しており、監査は、監査人により実施しており、体制が確立されている。

<評価・意見>

(特になし)

<対応>

引き続き、学校経営の安定化に努める。

(10) 法令等の遵守

<報告>

- ・設置や運営に関わる法令は遵守しており、毎年5月には県の現況調査を受けている。
- ・「専修学校における学校評価ガイドライン」に従い、自己評価、学校関係者評価の体制を整備し、実施、およびその結果について、ホームページにて公開している。

<評価・意見>

(特になし)

<対応>

引き続き、法令遵守していく。

以上